

## 総合研究奨励賞 (結城賞)



原田 洸

## 略 歴

- 2016年 3月 岡山大学医学部医学科 卒業  
2016年 4月 岡山大学病院 初期研修医  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 博士課程 入学  
2018年 4月 岡山大学病院 総合内科・総合診療科 医員  
2020年 3月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 博士課程 卒業  
2020年 4月 岡山市立市民病院 内科 医員  
2021年 4月 岡山大学病院 総合内科・総合診療科／国際診療支援センター 助教  
2021年 7月 マウントサイナイ・ベスイスラエル病院 内科レジデント  
現在に至る

## 研究論文内容要旨

【背景】結核菌感染症は、世界三大感染症として広く知られており、疫学調査や診断技術や治療薬の開発対象として注目されてきた。一方で、非結核性抗酸菌（NTM）感染症は未だ不可解な部分が多く、現代における日本人の死亡原因にどの程度関与するか不明であった。NTM感染症の発生率は世界的に増加しており、特に高齢者において大きな医療負担となっている。本研究では、日本におけるNTM関連の死亡率の動向を評価することを目的とした。

【方法】本研究では、日本における1997年から2016年までの期間の死亡統計データ（ $n = 18,814$ ）を解析に使用した。年齢と性別別の粗死亡率と年齢調整死亡率を算出し、Joinpoint回帰モデルを用いて傾向を分析し、年平均変化率を測定した。

【結果】全体の年間粗死亡率は、1997年の0.63/10万人/年から2016年には1.93/10万人/年に増加した。NTM感染症の粗死亡率は60～79歳の女性（3.5%、95% CI、2.8～4.3）および80歳以上の女性（4.3%、95% CI、3.7～4.9）で増加した。男性では年齢調整死亡率に有意な傾向は見られなかったが、女性では調査期間中に死亡率が上昇していた（年平均変化率、4.6%、95% CI、2.7-6.6）。女性では、2014年～2016年の期間でNTM関連の粗死亡率が結核による死亡率を上回った。

【結論】日本では1997年から2016年の期間にNTM関連の死亡率が増加し、特に高齢女性で増加が顕著であった。更に近年においては、女性におけるNTM感染症の死亡者数は、結核菌感染症による死亡者数を上回ることが明らかになった。